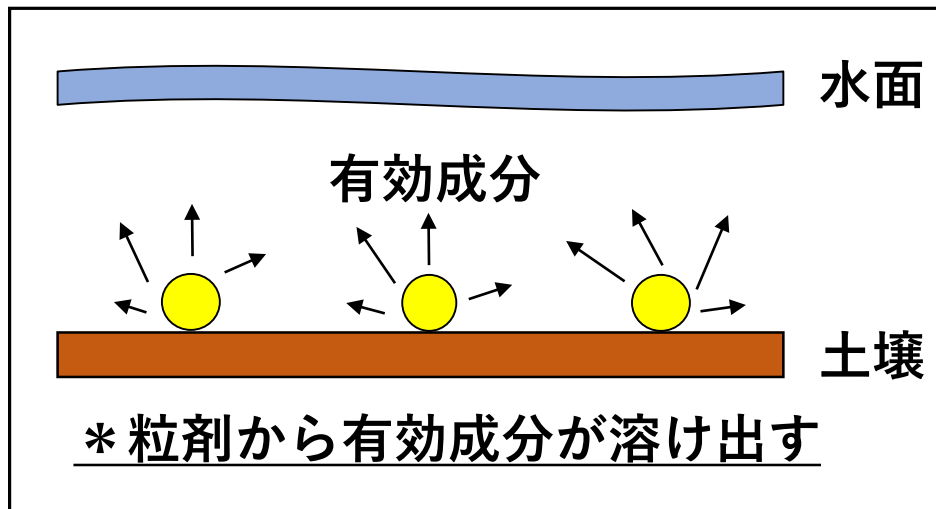
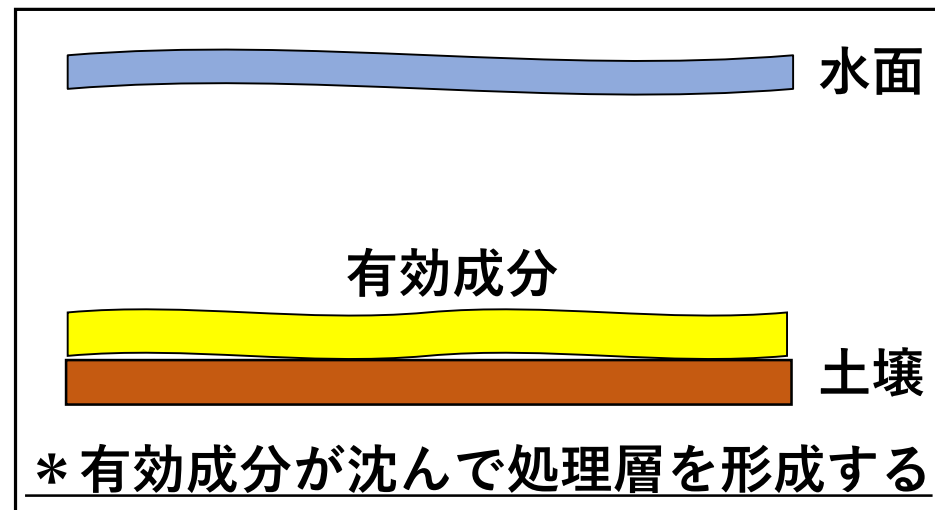
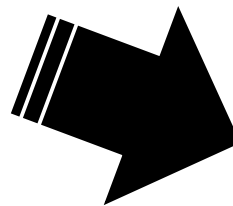


◎水稲除草剤は基本的に有効成分が水中または水面で拡がり、その後沈殿し、土壌表面に除草剤の膜を形成する。その後生えてくる雑草が除草剤の膜に触れることで枯れるというメカニズムになっている。

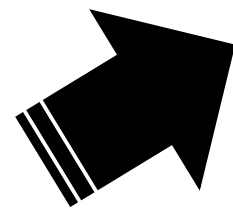
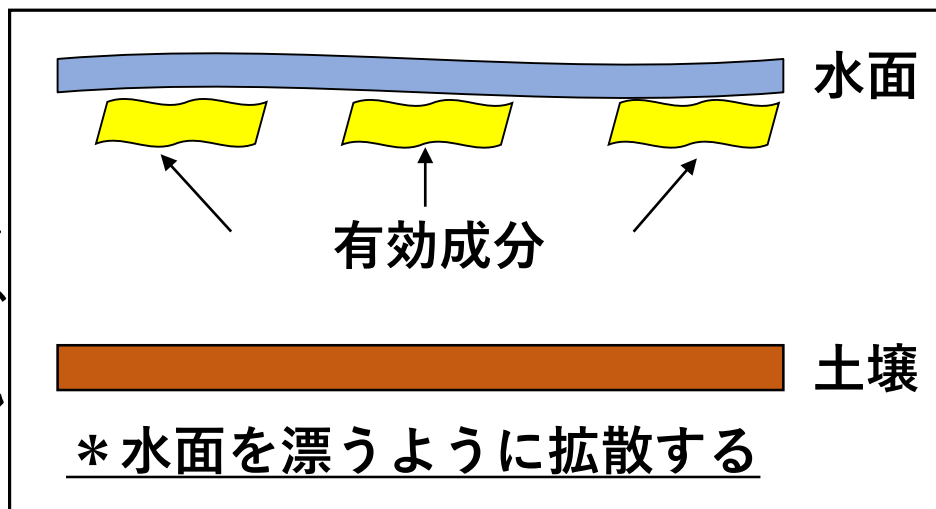
粒剤



薬剤散布後3～4日は湛水状態を保つ
水持ちの良い圃場については、最初の3日間はできるだけ差し水しない



フロアブル
ジャンボ



水持ちの悪い圃場については、チョロチョロと差し水を行い3日程度は湛水状態を保つ。

田植同時処理時の注意点

- 代かきを**ていねい**に行う。
代かきをていねいに行うと植え穴の戻りが良くなる。
- 代かきと田植えの**間隔を開けすぎない**。
間隔が長くなると植え穴の戻りがわるくなる（5日以内）。
- 薬量の**調整を**しっかり行う。
- 田植えをするときは**少量の水がある状態**で行う。
薬剤が長時間、じかに土壤に接触することがないため効果が安定する。
また、水があることで、植穴の戻りが良くなり、薬剤が根に直接接触れるのを防ぐ。
- 植付け幅を越えて**薬剤が飛散しないように**する。
農薬の飛散した部分に植え付けると薬害が発生する可能性がある。
- 田植え後は**速やかに湛水状態**にする。
株元付近に高濃度の薬剤が分布し、薬害が起こるのを防ぐ。